

授業科目名： 製図Ⅰ（実習を含む） 【共同科目（佐大）】	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1単位	担当教員名： 小野 文慈 担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校 技術）（高等学校 工業）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・材料加工(実習を含む。) ・工業の関係科目		
授業のテーマ及び到達目標 学士力達成のために、機械製図の基本的ルールを学ぶ			
授業の概要 技術科教員試験対応の、三角法、等角法、キャビネット法などを教授する			
授業計画 第1回：製図とは何か 生活機器製図で学ぶこと 第2回：製図の基本、線の引き方・文字のかき方 課題 『線の書き方』 基本的な図形のかき方 第3回：立体図(等角図・キャビネット図)の書き方 第4回：立体図(等角図・キャビネット図)における曲線部の書き方 第5回：立体図(等角図・キャビネット図)実技 課題 『等角図』 第6回：立体図(等角図・キャビネット図)実技 課題 『キャビネット図』 第7回：三角法を用いた品物の表示(フリーハンド) 練習問題 第8回：三角法を用いた図面の作成 課題 『三角法図面』 定期試験なし			
テキスト 自作の資料を配布する			
参考書・参考資料等 『初心者のための機械製図』森北出版			
学生に対する評価 課題の提出物で評価する			

授業科目名： 製図Ⅱ 【共同科目（佐大） 】	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1単位	担当教員名： 小野 文慈 担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校 技術）（高等学校 工業）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・材料加工(実習を含む。) ・工業の関係科目		
授業のテーマ及び到達目標 機械製図の基本的ルールを学んだあと、PCを使った図面を書けるようになる			
授業の概要 2 DCAD, 3 DCADでの図面の書き方を学ぶ			
授業計画 第1回：JWCADの使い方 コマンドの使い方（[消去]，[複線][伸縮） 実習 コマンドの使い方([属変][属性習得][レイヤー） 実習 第2回：CAD図面 効率的な図面の書き方 ●課題『線種の区別』寸法の記入法 第3回：CAD図面 ●課題『建築平面図』 第4回：CAD図面 ●課題『家具の図面』 第5回：CAD図面 ●課題『三角法の図面2』 第6回：3DCADのインストール環境 Autodesk 第7回：3DCAD を使った図面 『歯車』TinkerCad 第8回：3DCAD を使った図面 『フランジ』TinkerCad 定期試験なし			
テキスト なし			
参考書・参考資料等 『Tinkercadではじめる3D-CAD』工学社			
学生に対する評価 提出物で評価する			

授業科目名： 金属加工 I（実習を含む） 【共同科目（佐大）】	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1単位	担当教員名： 小野 文慈 担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校 技術）（高等学校 工業）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・材料加工(実習を含む。) ・工業の関係科目		
授業のテーマ及び到達目標 金属の特性を組織学的に理解し，加工するための鉄の本質を理解する			
授業の概要 鉄の組織学を学んだ後，グローバルな鉄の性質や測定法を学ぶ			
授業計画 第1回：金属加工学概論 鉄鋼とは 第2回：鉄と鋼 第3回：鉄の平衡状態図の見方 第4回：鋼の焼き入れ 第5回：ステンレス鋼・工具鋼 第6回：引張強さとせん断強さ 第7回：歯車の加工 歯車の減速比の計算 第8回：加工と精度 測定法実習 定期試験なし			
テキスト なし			
参考書・参考資料等 『金属材料が一番わかる（しくみ図解）』技術評論社 『機械工作1』実教出版			
学生に対する評価 毎回のレポートの提出にて評価をする			

授業科目名： 金属加工Ⅱ 【共同科目（佐大） 】	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1単位	担当教員名： 小野 文慈
			担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校 技術）（高等学校 工業）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・材料加工(実習を含む。) ・工業の関係科目		
授業のテーマ及び到達目標 さまざまな鉄の加工法を学ぶ			
授業の概要 鉄の組織学を学んだうえで、いろいろな加工法を学ぶ			
授業計画 第1回：切削加工（旋盤・フライス加工） 第2回：研削加工 グラインダー 第3回：鋳造、鍛造、転造 第4回：溶接加工、接着 第5回：引き抜き加工 パイプ 第6回：ねじ 第7回：製図法（機械部品の図示法） 第8回：3Dプリンタの原理と応用 定期試験なし			
テキスト なし			
参考書・参考資料等 『金属材料が一番わかる（しくみ図解）』技術評論社 『機械工作1』実教出版			
学生に対する評価 レポートの内容によって評価する			

授業科目名： 機械 I (実習を含む) 【シラバス共通科目 (熊大・佐大)】	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1単位	担当教員名： 大塚 芳生／小野 文慈
			担当形態： クラス分け・単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目 (中学校 技術 及び 高等学校 工業)		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・機械・電気(実習を含む。) ・工業の関係科目		
授業のテーマ及び到達目標 材料力学・構造力学の基礎を学習する			
授業の概要 力のつりあいを理解し、構造物にかかる応力が計算できるようになる。			
授業計画 第1回：力の合成と分解 第2回：力のモーメント 第3回：応力とひずみ 第4回：引張応力, 圧縮応力, 引張試験実習 第5回：梁の断面に働く力 第6回：はりの教材づくり(実習) 第7回：座屈 第8回：降伏応力 定期試験なし			
テキスト 『図解でわかる はじめての 材料力学』技術評論社			
参考書・参考資料等 なし			
学生に対する評価 毎回のレポートで評価する。			

授業科目名： 機械Ⅱ 【シラバス共通科目（ 熊大・佐大）】	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1単位	担当教員名： 大塚 芳生／小野 文慈
			担当形態： クラス分け・単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目 （中学校 技術 及び 高等学校 工業）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・機械・電気（実習を含む。） ・工業の関係科目		
授業のテーマ及び到達目標 機械Ⅰで 材料力学・構造力学を学び、トラスの設計を行う			
授業の概要 平面トラスの設計を行う			
授業計画 第1回：接触点，支点に働く力 第2回：トラスの概要 第3回：節点法・切断法 第4回：応力とひずみ 第5回：トラスの設計 (1) ・負荷条件を与え，トラス橋の形を設計する 第6回：トラスの設計 (2) ・各トラス部材力を計算していく 第7回：トラスの設計 (3) ・応力の大きさを勘案し部材のサイズを決定する 第8回：部材力とサイズのチェックを受ける			
テキスト 『図解でわかる はじめての 材料力学』技術評論社			
参考書・参考資料等 なし			
学生に対する評価 レポートおよび設計書を評価			

授業科目名： 機械実習 【シラバス共通科目 (熊大・佐大)】	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 大塚 芳生／小野 文慈
			担当形態： クラス分け・単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校 技術）（高等学校 工業）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・機械・電気(実習を含む。) ・工業の関係科目		
授業のテーマ及び到達目標 学士力に到達するために機械工作のやり方および安全に対する知識を身につける。			
授業の概要 安全について学んだあと、主に機械加工を体験する。また、接着加工として溶接、はんだ、ろう付けの加工方法を身につける。			
授業計画 第1回：安全教育（担当：小野 文慈） 第2回：ノギス、マイクロメータの使い方（担当：小野文慈／大塚芳生） 第3回：機械加工(旋盤・フライス盤・ボール盤) 荒削り加工（担当：小野 文慈／大塚 芳生） 第4回：機械加工(旋盤・フライス盤・ボール盤) 仕上げ加工（担当：小野 文慈／大塚 芳生） 第5回：機械加工(旋盤・フライス盤・ボール盤) 溝加工，端面加工，平面加工（担当：小野 文慈／大塚 芳生） 第6回：接着加工(溶接・はんだ・ろう付け) の基礎（担当：小野 文慈／大塚 芳生） 第7回：接着加工(はんだ・ろう付け)の実習（担当：小野 文慈／大塚 芳生） 第8回：接着加工(溶接)の実習（担当：小野 文慈／大塚 芳生） 第9回：安全教育・けがき（担当：小野 文慈／大塚 芳生） 第10回：はつり作業（担当：小野 文慈／大塚 芳生） 第11回：やすりがけ作業（担当：小野 文慈／大塚 芳生） 第12回：キサゲ作業（担当：小野 文慈／大塚 芳生） 第13回：ねじきり 下穴加工（担当：小野 文慈／大塚 芳生） 第14回：ねじきり タップ（担当：小野 文慈／大塚 芳生） 第15回：ねじきり ダイス（担当：小野 文慈／大塚 芳生） 定期試験 実施しない。			
テキスト なし			
参考書・参考資料等			

機械実習 1 測定の基礎・手仕上げ・鋳造・溶接・塑性加工・切削加工 実教出版

機械実習 2 切削加工・研削加工・NC工作機械加工・CADとその応用 実教出版

学生に対する評価 制作物とレポートによって評価する

授業科目名： 電気Ⅰ（実習を含む） 【共同科目（佐大）】	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1単位	担当教員名： 和久屋 寛
			担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校 技術）（高等学校 工業）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・機械・電気（実習を含む。） ・工業の関係科目		
授業のテーマ及び到達目標 1) 「直流回路」に関する知識を修得し、関連する問題を解くことができる。 2) 「電流と磁気」に関する知識を修得し、関連する問題を解くことができる。			
授業の概要 これは、後続科目「電気Ⅱ」とともに、電気工学の出発点となるべき基本的な授業科目である。それゆえ、中途半端な理解では、現代社会における関連技術の理解に支障を来すことが予想される。そこで、本講義では、工業高校において教科書として採用される書籍を取って取り上げ、直流回路、電流と磁気という順序で深く学ぶ。また、演習問題に取り組むことを通して、その知識を活用できるように鍛える。			
授業計画 第1回： ガイダンス 直流回路① 直流回路の電流と電圧 第2回： 直流回路② 電力と熱エネルギー、電気抵抗 第3回： 直流回路③ 電流の化学作用と電池 電流と磁気① 電流と磁界 第4回： 電流と磁気② 磁界中の電流に働く力 第5回： 電流と磁気③ 磁性体と磁気回路 第6回： 電流と磁気④ 電磁誘導と電磁エネルギー 第7回： 実習 模型用モータの仕組み 第8回： 総括と定期試験および解説			
テキスト ・電気基礎 1（堀田栄喜・藤田英明・川嶋繁勝 他9名，実教出版，2017） https://www.jikkyo.co.jp/book/detail/17000035			
参考書・参考資料等 なし			
学生に対する評価			

授業への出席状況とレポート課題の提出状況（50%）、定期試験の成績（50%）と定め、それぞれが一定の基準に達した場合に「合格」とする。

授業科目名： 電気Ⅱ 【共同科目（佐大） 】	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1単位	担当教員名： 和久屋 寛
			担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校 技術）（高等学校 工業）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・機械・電気（実習を含む。） ・工業の関係科目		
授業のテーマ及び到達目標 1) 「静電気」に関する知識を修得し、関連する問題を解くことができる。 2) 「交流回路」に関する知識を修得し、関連する問題を解くことができる。			
授業の概要 これは、先行科目「電気Ⅰ（実習を含む）」の続編という位置付けである。両科目は、電気工学の出発点であり、電子工学、情報通信工学と発展して、その延長線上に人工知能がある。それゆえ、現代社会における関連技術の理解に欠かせない内容を含む。そこで、本講義では、工業高校の教科書を敢えて取り上げ、静電気、交流回路という順序で深く学ぶ。また、演習問題に取り組むことを通して、その知識を活用できるように鍛える。 ※「電気Ⅰ（実習を含む）」の履修を前提として進める。			
授業計画 第1回： ガイダンス 静電気① 電荷と電界 第2回： 静電気② コンデンサ 第3回： 静電気③ 絶縁破壊と放電現象 第4回： 交流回路① 交流の基礎 第5回： 交流回路② R、L、Cの働き 第6回： 交流回路③ 交流電力 第7回： 総復習 第8回： 総括と定期試験および解説			
テキスト ・電気基礎 1（堀田栄喜・藤田英明・川嶋繁勝 他9名，実教出版，2017） https://www.jikkyo.co.jp/book/detail/17000035			
参考書・参考資料等 なし			
学生に対する評価			

授業への出席状況とレポート課題の提出状況（50%）、定期試験の成績（50%）と定め、それぞれが一定の基準に達した場合に「合格」とする。

授業科目名： 電気実習 【シラバス共通科目（ 熊大・佐大）】	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 和久屋 寛／大塚 芳生
			担当形態： クラス分け・単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目 （中学校 技術 及び 高等学校 工業）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・機械・電気（実習を含む。） ・工業の関係科目		
授業のテーマ及び到達目標 1) 実験レポートの役割を理解し、客観的な記述に基づくレポートを作成することができる。 2) 簡単な電気回路の測定を通して、測定器の使い方を理解し、その説明ができる。 3) 基本的な電子回路の工作を通して、その動作原理を理解し、その説明ができる。			
授業の概要 これは、いくつかの現象を実際に観察し、その内容をレポートとしてとりまとめる授業科目である。 そこで、本実習では、実験内容をとりまとめて第三者に分かりやすく説明するための「実験レポート」について、その重要性を説明した後、実践的なトレーニングとして、いくつかの基本的な電気回路及び電子回路に関わる実験に取り組む。 ※「電気Ⅰ（実習を含む）」の履修を前提として進める。			
授業計画 第1回： ガイダンス、安全教育（担当：和久屋 寛／大塚 芳生） 第2回： レポート作成の基礎① 役割、基本的な構成、図表の作成方法（担当：和久屋 寛／大塚 芳生） 第3回： レポート作成の基礎② 測定技術、誤差の評価（担当：和久屋 寛／大塚 芳生） 第4回： グラフ用紙の使い方（担当：和久屋 寛／大塚 芳生） 第5回： 測定器の使い方（担当：和久屋 寛／大塚 芳生） 第6回： 簡単な電気回路実験① 簡単な信号の作成とその波形の測定（担当：和久屋 寛／大塚 芳生） 第7回： 簡単な電気回路実験② オームの法則（担当：和久屋 寛／大塚 芳生） 第8回： 模型用モータの仕組み（担当：和久屋 寛／大塚 芳生） 第9回： 基本的な電子回路実験① LEDの実験、増幅の実験（担当：和久屋 寛／大塚 芳生） 第10回： 基本的な電子回路実験② タイマの実験（担当：和久屋 寛／大塚 芳生） 第11回： 基本的な電子回路実験③ 光センサの実験（担当：和久屋 寛／大塚 芳生） 第12回： 電子回路工作の実際① はんだ付け練習（担当：和久屋 寛／大塚 芳生）			

第13回： 電子回路工作の実際② 基板の組み立て（担当：和久屋 寛／大塚 芳生）

第14回： 電子回路工作の実際③ 動作の確認（担当：和久屋 寛／大塚 芳生）

第15回： 総復習（担当：和久屋 寛／大塚 芳生）

定期試験は実施しない。

テキスト

・安全の手引（佐賀大学教育学部）

https://next.pd.saga-u.ac.jp/Anzen_no_tebiki.html

参考書・参考資料等

・関連する内容を指示する。

学生に対する評価

授業への出席状況とレポート課題の提出状況（50%）、レポート課題の内容（50%）と定め、それぞれが一定の基準に達した場合に「合格」とする。

授業科目名：生物育成 IA（実習を含む）【 独自科目（佐大）】	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 1単位	担当教員名： 一色 司郎
			担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校 技術）（高等学校 工業）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・生物育成		
授業のテーマ及び到達目標：主に園芸作物の生産、流通、利用、あるいは教育、研究、行政に関わる職業に就く予定の学生だけでなく、人文科学的、社会科学的な分野に関わる学生にも、栽培学の基本的な部分を網羅の理解を目標とした。			
授業の概要：栽培学は、作物の生産、流通、利用、あるいは教育、研究、行政に関わる職業に就く予定の学生だけでなく、人文科学的、社会科学的分野に関わる学生にも、受け入れられるものとした。			
授業計画 第1回：総論 第2回：園芸作物の形態 第3回：園芸作物の発育における生理生態的特性と栽培管理 1. 野菜 第4回：園芸作物の生理 第5回：園芸作物の発育における生理生態的特性と栽培管理 花き 第6回：農業資材および生産施設と植物工場 第7回：園芸作物の育種とNPBTおよび繁殖 第8回：園芸作物の発育に伴う生理生態的特性と栽培管理 落葉果樹			
テキスト 「園芸学第2版」金山喜則編、文永堂出版			
参考書・参考資料等 なし			
学生に対する評価 各回レポートを課し、その内容により評価する			

授業科目名： 生物育成IB（実習を含む） 【独自科目（熊大）】	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 1単位	担当教員名：田口 浩継 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校 技術）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・生物育成		
授業のテーマ及び到達目標 生物育成の技術に関する基礎的な知識及び技術の修得を目的とする。特に、作物を栽培するための育成環境、育成技術について講義と実習により理解する。			
授業の概要 生物育成の技術を指導するに必要な知識やスキルを身に付けるために、テキスト及びワークシートを用いるとともに実習により学修を進める。			
授業計画 第1回：栽培の意義、作物の種類と分類 第2回：栽培環境としての土壌 第3回：土壌の理学性と化学性 第4回：普光・温度と生育 第5回：生育と開花の調整 第6回：種子繁殖・栄養繁殖と組織培養、育苗 第7回：整地と施肥、播種と植え付け 第8回：作物管理、土壌管理 定期試験			
テキスト 日本産業技術教育学会・技術教育分科会編、技術科教育概論、九州大学出版会 日本農業教育学会編：学校園の栽培便利帳 星川清親：みんなの農業教室、家の光協会			
参考書・参考資料等 検定済み教科書（技術・家庭科）			
学生に対する評価 成績は試験(60%)、レポート(20%)及び授業・実習への積極的参加度(20%)などにより評価する。試験結果の概ね6割以上の成績を修めたものを合格とする。			

授業科目名：生物育成 IIA 【独自科目（佐大） 】	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 一色 司郎
			担当形態： クラス分け・単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校 技術）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・生物育成		
授業のテーマ及び到達目標：主に園芸作物の生産、流通、利用、あるいは教育、研究、行政に関わる職業に就く予定の学生だけでなく、人文科学的、社会科学的な分野に関わる学生にも、栽培学の基本的な部分を網羅の理解を目標とした。			
授業の概要：栽培学は、作物の生産、流通、利用、あるいは教育、研究、行政に関わる職業に就く予定の学生だけでなく、人文科学的、社会科学的分野に関わる学生にも、受け入れられるものとした。			
授業計画 第1回：園芸作物の発育に伴う生理生態的特性と栽培管理 落葉果樹 第2回：園芸作物の発育に伴う生理生態的特性と栽培管理 常緑果樹 第3回：スマート農業（ 第4回：園芸作物の品質保持 特に収穫後の生理について 第5回：園芸作物の品質保持 特に野菜、果実および花卉の品質保持について 第6回：園芸作物の栄養成分と機能性成分 第7回：SDGsと園芸第8回：園芸作物の有機栽培			
テキスト 「園芸学第2版」金山喜則編、文永堂出版			
参考書・参考資料等 なし			
学生に対する評価 各回レポートを課し、その内容により評価する			

授業科目名： 生物育成ⅡB 【独自科目（熊大）】	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 1単位	担当教員名：田口 浩継 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校 技術）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・生物育成		
授業のテーマ及び到達目標 生物育成の技術に関する基礎的な知識及び技術の修得を目的とする。特に、作物を栽培するための育成環境、育成技術について理解する。			
授業の概要 生物育成の技術を指導するに必要な知識やスキルを身に付けるために、テキスト及びワークシートを用い学修を進める。			
授業計画 第1回：病虫害防除 第2回：化学調節、バイオテクノロジー 第3回：生物育成の技術における環境教育 第4回：種子繁殖・栄養繁殖と組織培養、育苗 第5回：動物の飼育環境の管理 第6回：水産生物の育成環境の管理 第7回：生物育成の技術の評価・管理 第8回：生物育成の技術と社会 定期試験			
テキスト 日本産業技術教育学会・技術教育分科会編、技術科教育概論、九州大学出版会 日本農業教育学会編：学校園の栽培便利帳 星川清親：みんなの農業教室、家の光協会			
参考書・参考資料等 検定済み教科書（技術・家庭科）			
学生に対する評価 成績は試験(60%)、レポート(20%)及び授業・実習への積極的参加度(20%)などにより評価する。 試験結果の概ね6割以上の成績を修めたものを合格とする。			

授業科目名： 生物育成実習 【独自科目（熊大） 】	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：田口 浩継 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校 技術）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・生物育成		
授業のテーマ及び到達目標 生物育成の技術に関する基礎的な知識及び技術の修得を目的とする。特に、作物を栽培するための育成環境、育成技術について講義と実習により理解する。			
授業の概要 大江農場においての栽培実習を通して、「生物育成の技術」に関連した作物の管理技術や環境調節技術を習得する。また、生物育成の技術を指導するに必要な知識やスキルを身に付けるために、テキスト及びワークシートを用いるとともに実習により学修を進める。			
授業計画 第1回：生物育成実習のガイダンス（目的・意義・実習計画・安全な実習） 第2回：栽培の意義、作物の種類と分類 第3回：ハウスの整備・草花の植え付け、果菜類の植え付け 第4回：栽培環境としての土壌、土壌管 第5回：土壌の理学性と化学性、作物管理 第6回：整地と施肥、播種と植え付け 第7回：甘藷の植え付け、果菜類管理 第8回：水稻播種、果菜類の管理 第9回：光・温度と生育の関係 第10回：草花、果菜類の手入れの仕方 第11回：生育と開花の調整 第12回：種子繁殖・栄養繁殖と組織培養、育苗 第13回：果菜類管理・根菜類の播種 第14回：柑橘類の摘花 第15回：果菜類の収穫・圃場の整備			
テキスト 日本産業技術教育学会・技術教育分科会編、技術科教育概論、九州大学出版会 日本農業教育学会編：学校園の栽培便利帳 星川清親：みんなの農業教室、家の光協会			

参考書・参考資料等

検定済み教科書（技術・家庭科）

学生に対する評価

成績は実習への積極的参加度(20%)、作業技能(20%)、実習試験(20%)、筆記試験(20%)、レポート(20%)により評価する。実習の方法、手順が概ね理解され、栽培技術の習得が概ね達成され、筆記試験・レポートで概ね6割以上の成績を修めたものを合格とする。

授業科目名： 情報とコンピュータ I (実習を含む) 【共同科目 (熊大)】	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1 単位	担当教員名：大塚 芳生、 田口 浩継 担当形態：複数
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目 (中学校 技術及び高等学校 工業)		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・情報とコンピュータ ・工業の関係科目		
授業のテーマ及び到達目標 ICT 活用に関する知識・技能を習得するとともに、情報および ICT を活用した問題解決の理論・概念の理解と基礎的能力を育む。			
授業の概要 デジタル作品作成技術、画像表現、ネットワーク社会のルールとマナー、プログラミングの基礎について学びます。			
授業計画 第1回：学校教育における情報処理 第2回：生活や社会を支える情報と身の回りにおける情報の技術 第3回：コンピュータのハードウェア 第4回：プログラムの仕組み、構造、表現 (実習を含む) 第5回：情報を処理するしくみ、伝えるしくみ、デジタル化の方法 (実習を含む) 第6回：情報の表現とネットワークの仕組み (実習を含む) 第7回：情報セキュリティと情報モラル (実習を含む) 第8回：本授業のまとめ (実習を含む)			
テキスト 日本産業技術教育学会・技術教育分科会編、技術科教育概論、九州大学出版会 中学校学習指導要領技術・家庭編、開隆堂			
参考書・参考資料等 熊本大学情報教育研究会：ITを自由自在に活用するヒント、明治図書、ISBN978-4-18-219818-2 斉藤孝：サーバのしくみがわかる本、技術評論者、ISBN4-7741-1000-0 検定済み教科書 技術・家庭 技術分野 (東京書籍、開隆堂、教育図書) の各社			
学生に対する評価 各回授業で提出するリアクションペーパー50%と提出された作品 (課題に対する作品) 50%で評			

価します。各回提出作品を10点満点、リアクションペーパー10点満点で採点し、全体で100点になるように換算します。提出した場合6点、課題条件を満たしている場合7点、工夫が見られる場合8点、独自性がある場合9点、独自性・新規性に優れている場合10点とします。ただし、著作権侵害・誹謗中傷など劣っている場合には5点以下場合があります。特にリアクションペーパーでは自分が毎回受講して、自分がどのように変化したかを具体的に明記されているかどうか、新たな視点で振り返りをしているかどうかで評価します。

授業科目名： 情報とコンピュータⅡ 【共同科目（熊大）】	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1単位	担当教員名：大塚芳生、田口 浩継 担当形態：複数
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校 技術及び高等学校 工業）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・情報とコンピュータ ・工業の関係科目		
授業のテーマ及び到達目標 ICT 活用に関する知識・技能を習得するとともに、情報および ICT を活用した問題解決の理 論・概念の理解を踏まえて、社会的な課題を解決できる。			
授業の概要 デジタル化の利点、情報伝達のしくみ、生活の中にある計測と制御、プログラミングによる 問題解決について学ぶ。			
授業計画 第1回：表現における評価 第2回：知的財産の保護 第3回：双方向性のあるコンテンツ 第4回：計測・制御による問題解決 第5回：これからの情報の技術 第6回：ICTを活用した課題解決1（提示した課題の解決・実習を含む） 第7回：ICTを活用した課題解決2（自らの課題の解決・実習を含む） 第8回：本授業のまとめ			
テキスト 日本産業技術教育学会・技術教育分科会編，技術科教育概論，九州大学出版会 中学校学習指導要領技術・家庭編、開隆堂			
参考書・参考資料等 熊本大学情報教育研究会：ITを自由自在に活用するヒント、明治図書、ISBN978-4-18-219818- 2 検定済み教科書 技術・家庭 技術分野（東京書籍、開隆堂、教育図書）の各社			
学生に対する評価 各回授業で提出するリアクションペーパー50%と提出された作品（課題に対する作品）50%で評 価します。各回提出作品を10点満点、リアクションペーパー10点満点で採点し、全体で100点 になるように換算します。提出した場合6点、課題条件を満たしている場合7点、工夫が見られ			

る場合8点、独自性がある場合9点、独自性・新規性に優れている場合10点とします。ただし、著作権侵害・誹謗中傷など劣っている場合には5点以下場合があります。特にリアクションペーパーでは自分が毎回受講して、自分がどのように変化したかを具体的に明記されているかどうか、新たな視点で振り返りをしているかどうかで評価します。

授業科目名：情報とコンピュータ実習 【独自科目（熊大）】	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：大塚 芳生、 田口 浩継 担当形態：複数
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校 技術及び高等学校工業）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・情報とコンピュータ ・工業の関係科目		
授業のテーマ及び到達目標 ICT 活用に関する知識・技能を習得するとともに、情報および ICT を活用した問題解決の理論・概念の理解を踏まえて、課題を解決できる能力を育む。			
授業の概要 プログラミング技法、マルチメディア利用、制御技術とそれに伴う課題等を学びます。授業ごとに設定した学習課題について、ICTを用いながら学びます。毎時のはじめに前回の振り返りを実施します。			
授業計画 第1回：概要説明， Webページ制作（GoogleサイトによるWebページ制作） 第2回：画像編集実習（写真編集ソフト（Googleフォト）を利用した画像処理・編集） 第3回：画像編集実習（ドロー系ソフト（Google図形描画）を利用した画像作成・編集） 第4回：動画制作実習（動画編集ソフトを利用した動画制作） 第5回：音楽制作実習（Google Song MakerやGarageBandを用いた音楽制作） 第6回：教育用プログラミングソフト（ScratchJR）を用いたプログラミング基礎 第7回：SphereBoltを用いたプログラミング制御 第8回：授業概要・評価の説明、ロボット製作とプログラミングによるロボット制御 第9回：前回の発表とタブレット端末を利用したマルチメディア制作 第10回：タブレット端末を利用したマルチメディア制作 第11回：前回の発表とタブレット端末を利用したプレゼンテーション制作 第12回：前回の発表とプログラミング教育用ソフトを用いた演習 第13回：ワープロ操作の学習 第14回：表計算ソフトの学習 第15回：本授業のまとめ			
テキスト 中学校学習指導要領技術・家庭編、開隆堂 検定済み教科書 技術・家庭 技術分野（東京書籍、開隆堂、教育図書）の各社			

参考書・参考資料等

熊本大学情報教育研究会：ITを自由自在に活用するヒント、明治図書、ISBN978-4-18-219818-2

学生に対する評価

各回授業で提出するリアクションペーパー50%と提出された作品（課題に対する作品）50%で評価します。各回提出作品を10点満点、リアクションペーパー10点満点で採点し、全体で100点になるように換算します。提出した場合6点、課題条件を満たしている場合7点、工夫が見られる場合8点、独自性がある場合9点、独自性・新規性に優れている場合10点とします。ただし、著作権侵害・誹謗中傷など劣っている場合には5点以下の場合があります。特にリアクションペーパーでは自分が毎回受講して、自分がどのように変化したかを具体的に明記されているかどうか、新たな視点で振り返りをしているかどうかで評価します。

授業科目名： プログラミング 【独自科目（佐大） 】	教員の免許状取得のための 選択必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 和久屋 寛
			担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校 技術）（高等学校 工業）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・情報とコンピュータ ・工業の関係科目		
授業のテーマ及び到達目標 1) ディスプレイへの文字出力、キーボードからの文字入力など、簡単なプログラムを作成できる。 2) 加減乗除、大小比較、制御文などを用いて、基本的なプログラムを作成できる。 3) 配列とポインタを理解し、その使い方を説明できる。 4) 関数を理解し、その使い方を説明できる。			
授業の概要 これは、様々な命令を用いて実際にコンピュータを動作させ、基本的な情報処理の仕組みを理解する授業科目である。今や、一種の家電製品と化したコンピュータであるが、決して、勝手に仕事をしてくれる「魔法の道具」ではない。あらかじめ記憶させた一連の命令を、単に順次実行させているだけである。そこで、本講義では、その一連の流れを体験することで、コンピュータを用いた情報処理について理解する。			
授業計画 第1回： ガイダンス C言語をはじめる前に 第2回： 基本的なプログラム① Hello World! 第3回： 基本的なプログラム② 数値型変数 第4回： 基本的なプログラム③ 文字型変数 第5回： 演算子① 計算の演算子 第6回： 演算子② 比較演算子、論理演算子 第7回： 演算子③ ビットとバイト 第8回： 制御文① if文 第9回： 制御文② for文 第10回： 配列とポインタ① 配列 第11回： 配列とポインタ② アドレス 第12回： 関数① 関数の定義			

第13回： 関数② 引数の受け渡し

第14回： ファイルの入出力① ファイルの読み出し

第15回： ファイルの入出力② ファイルの書き出し

定期試験は実施しない。

テキスト

・Cの絵本 第2版 —C言語が好きになる新しい9つの扉（アーク，翔泳社，2016）

<https://www.shoehisha.co.jp/book/detail/9784798150383>

参考書・参考資料等

なし

学生に対する評価

授業への出席状況とレポート課題の提出状況（50%）、最終課題（50%）と定め、それぞれが一定の基準に達した場合に「合格」とする。

授業科目名： 中等技術科指導法Ⅰ 【共同科目（熊大）】	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 田口 浩継、大塚 芳生
			担当形態： オムニバス
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校 技術）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）		
授業のテーマ及び到達目標 技術科教育における各学習内容について学修し、技術科教員としての素養としての知見を得ることを目的とする。			
授業の概要 技術科教育における各学習内容について、課題解決学習の視点や具体的な指導内容、指導方法について学修する。			
授業計画 第1回：授業概要・評価の説明、学習指導要領各学習内容における課題解決学習と技術と社会との関わり（田口 浩継） 第2回：課題解決学習と技術と社会との関わり（田口 浩継） 第3回：各学習内容における課題解決学習と技術科教育の授業設計（田口 浩継） 第4回：材料と加工の技術（木材）（田口 浩継） 第5回：材料と加工の技術（金属）（田口 浩継） 第6回：材料と加工の技術（プラスチック）（田口 浩継） 第7回：生物育成の技術（作物）（田口 浩継） 第8回：生物育成の技術（動物・水産生物）（田口 浩継） 第9回：エネルギー変換技術（エネルギーと社会）（大塚 芳生） 第10回：エネルギー変換の技術（電気）（大塚 芳生） 第11回：エネルギー変換の技術（機械）（大塚 芳生） 第12回：エネルギー変換の技術（ロボット製作の基礎・基本）（大塚 芳生） 第13回：情報の技術（情報・デジタルと情報技術）（大塚 芳生） 第14回：情報の技術（計測・制御のプログラミング）（大塚 芳生） 第15回：情報の技術（情報モラル教育・情報セキュリティ教育）（大塚 芳生）			
テキスト 文部科学省「中学校学習指導要領（平成29年告示）」東山書房（2018） 文部科学省「中学校学習指導要領解説（平成29年告示）技術・家庭編」開隆堂出版（2018） 日本産業技術教育学会・技術教育分科会編、技術科教育概論、九州大学出版会			
参考書・参考資料等			

検定済み教科書 技術・家庭 技術分野 (東京書籍、開隆堂、教育図書) の各社
中学校技術・家庭科 (技術分野) 事例集 (令和6年3月時点) https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/new-cs/senseioun/mext_02685.html

学生に対する評価

授業への積極的な参加意欲と態度(40%)、課題・レポート(60%)により成績評価を行います。

授業科目名： 中等技術科指導法Ⅱ 【シラバス共通科目（ 熊大・佐大）】	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 田口 浩継、大塚 芳生/ 角 和博 担当形態： クラス分け・オムニバス/ 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）		
授業のテーマ及び到達目標：技術科教育の理論と実践についての基礎的な内容について学修し、技術科教員としての素養としての知見を得ることを目的とする。			
授業の概要：技術科教育に関連する指導計画、授業設計、授業分析、学習指導、学習評価、安全管理と指導、技術科固有の資質と能力の育成について学修する。			
<p>授業計画</p> <p>第1回：技術科の指導計画（指導計画の分類、指導計画作成のための実態把握）（田口 浩継／角 和博）</p> <p>第2回：技術科の指導計画（指導計画の作成、指導計画の実際例）（田口 浩継／角 和博）</p> <p>第3回：技術科の授業設計（授業設計の意味、授業設計と学習指導案作成の意義）（田口 浩継／角 和博）</p> <p>第4回：技術科の授業設計（授業設計の留意点、授業設計の方法）（田口 浩継／角 和博）</p> <p>第5回：技術科の授業分析（授業分析・授業観察の視点）（田口 浩継／角 和博）</p> <p>第6回：技術科の授業分析（授業分析の対象／学習活動の分析）（田口 浩継／角 和博）</p> <p>第7回：技術科の学習指導（技術科の学習指導の特徴、技術科の思考の枠組みと学習過程）（模擬授業と ICT 活用）（大塚 芳生／角 和博）</p> <p>第8回：技術科の学習指導（技術科で育成する資質・能力と学習指導）（模擬授業と ICT 活用）（大塚 芳生／角 和博）</p> <p>第9回：技術科の学習指導（果的な指導及び支援、授業内容・指導方法の改善）（模擬授業と ICT 活用）（大塚 芳生／角 和博）</p> <p>第10回：技術科の学習指導（教材・教具、題材の役割と効果）（田口 浩継／角 和博）</p> <p>第11回：技術科の学習評価（学習評価とは、観点別学習状況による評価）（大塚 芳生／角 和博）</p> <p>第12回：技術科の学習評価（問題解決的な学習における学習評価、学習評価（大塚 芳生／角 和博））</p> <p>第13回：技術科の安全管理と指導（安全教育の意義と役割）（大塚 芳生／角 和博）</p> <p>第14回：技術科固有の資質と能力（Society5.0の実現に求められる資質・能力）（大塚 芳</p>			

生／角 和博)

第15回：技術科固有の資質と能力（技術科で求められる資質・能力と教育課程編成）（大塚芳生／角 和博)

レポート提出

テキスト：

文部科学省「中学校学習指導要領（平成29年告示）」東山書房（2018）

文部科学省「中学校学習指導要領解説（平成29年告示）技術・家庭編」開隆堂出版（2018）

日本産業技術教育学会・技術教育分科会編、技術科教育概論、九州大学出版会

参考書・参考資料等：検定済教科書（技術・家庭 技術分野）東京書籍、開隆堂、教育図書

文部科学省国立教育政策研究所 教育課程研究センター「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料 中学校技術・家庭 令和2年3月

古川・杉山／編著 平成29年改訂 中学校教育課程実践講座 技術・家庭 ぎょうせい 2017

学生に対する評価

授業への積極的な参加意欲と態度（40%）、課題・レポート（60%）を総合して成績を評価する。

授業科目名： 中等技術科指導法Ⅲ 【シラバス共通科目（ 熊大・佐大）】	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 田口 浩継、大塚 芳生/ 角 和博 担当形態： クラス分け・オムニバス/ 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）		
授業のテーマ及び到達目標 技術科教育の理論と実践についての基礎的な内容について学習し、技術科教員としての素養としての知見を得ることを目的とする。			
授業の概要：技術科教育に関連する目的・意義、歴史的背景、教育課程、学校教育法、比較研究（各国の教育課程、実践事例）などについて学修する。			
授業計画 第1回：技術科教育の目的と今日的課題（田口 浩継／角 和博） 第2回：技術教育及び技術科教育の概念、ものづくり教育の意義（田口 浩継／角 和博） 第3回：技術科教育の歴史的変遷（誕生から戦前）（田口 浩継／角 和博） 第4回：普通教育課程における技術教育の形成と展開（田口 浩継／角 和博） 第5回：子どもの発達と技術科教育（田口 浩継／角 和博） 第6回：教育課程の意義と編成（田口 浩継／角 和博） 第7回：技術科教育の教育課程の展開（田口 浩継／角 和博） 第8回：教育課程の評価の対象、方法、観点及び留意点（大塚 芳生／角 和博） 第9回：技術科における教育課程の評価の観点と留意点（大塚 芳生／角 和博） 第10回：学校教育法、地方教育行政法と教育課程（大塚 芳生／角 和博） 第11回：比較研究（アメリカの技術教育）（大塚 芳生／角 和博） 第12回：比較研究（STEM/STEAM教育とその影響）（大塚 芳生／角 和博） 第13回：比較研究（イギリスの技術教育）（大塚 芳生／角 和博） 第14回：比較研究（中国とドイツの技術教育）（大塚 芳生／角 和博） 第15回：比較研究（フィンランドと台湾の技術教育）（大塚 芳生／角 和博） レポート提出			
テキスト 文部科学省「中学校学習指導要領（平成29年告示）」東山書房（2018） 文部科学省「中学校学習指導要領解説（平成29年告示）技術・家庭編」開隆堂出版（2018） 日本産業技術教育学会・技術教育分科会編、技術科教育概論、九州大学出版会			

参考書・参考資料等

文部科学省検定済教科書（技術・家庭科）、開隆堂出版、東京書籍、教育図書

学生に対する評価

授業への積極的な参加意欲と態度(40%)、課題・レポート(60%)を総合して成績を評価する。

授業科目名： 中等技術科指導法Ⅳ 【シラバス共通科目（ 熊大・佐大）】	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 田口 浩継、大塚 芳生/ 角 和博 担当形態： クラス分け・オムニバス/ 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）		
授業のテーマ及び到達目標：技術教育および技術科教育の本質を認識し、教材研究の主題の立て方、手順、情報採取の方法などを理解するとともに教育実践に生かそうとする姿勢の醸成を目指している。			
授業の概要：技術科教育に関する基礎的な知識や技能を理解した上で、中学校技術・家庭科（技術分野）の教材研究の主題の立て方、手順、情報採取の方法、諸外国の技術教育や先進的な技術科教育などについて学習する。			
授業計画 第1回：技術科教育の教材研究の着想（田口 浩継／角 和博） 第2回：技術科教育の教材研究の方法（田口 浩継／角 和博） 第3回：技術科教育の教材研究における主題の立て方（田口 浩継／角 和博） 第4回：技術科教育の教材研究の手順（田口 浩継／角 和博） 第5回：技術科教育の資料の収集方法（田口 浩継／角 和博） 第6回：技術科教育の先行研究の整理（田口 浩継／角 和博） 第7回：技術科教育の教材研究1（材料と加工）（田口 浩継／角 和博） 第8回：技術科教育の教材研究2（生物育成）（田口 浩継／角 和博） 第9回：技術科教育の教材研究3（エネルギー変換）（大塚 芳生／角 和博） 第10回：技術科教育の教材研究4（情報の技術）（大塚 芳生／角 和博） 第11回：技術科教育の教材開発1（材料と加工）（田口 浩継／角 和博） 第12回：技術科教育の教材開発2（生物育成）（田口 浩継／角 和博） 第13回：技術科教育の教材開発3（エネルギー変換）（大塚 芳生／角 和博） 第14回：技術科教育の教材開発4（情報の技術）（大塚 芳生／角 和博） 第15回：技術科教育の総括（大塚 芳生／角 和博） レポート提出			
テキスト 文部科学省「中学校学習指導要領（平成29年告示）」東山書房（2018） 文部科学省「中学校学習指導要領解説（平成29年告示）技術・家庭編」開隆堂出版（2018）			

日本産業技術教育学会・技術教育分科会編、技術科教育概論、九州大学出版会

参考書・参考資料等

文部科学省検定済教科書（技術・家庭科）、開隆堂出版、東京書籍、教育図書

学生に対する評価

授業への積極的な参加意欲と態度(40%)、課題・レポート(60%)を総合して成績を評価する。

授業科目名： 家庭経営学Ⅰ 【シラバス共通科目 (熊大・佐大)】	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1単位	担当教員名： 八幡 彩子／奥谷 めぐみ 担当形態： クラス分け・単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目 (中学校及び高等学校 家庭)		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・家庭経営学(家族関係学及び家庭経済学を含む。)		
授業のテーマ及び到達目標 中学校・高等学校の家庭科教員免許状取得に必要な家庭経営学領域の基礎的知識の習得を目的とする。本授業の到達目標は以下の通り。 1) 中学校・高等学校の家庭科教員免許状取得に必要な家庭経営学領域の基礎的知識を習得する。			
授業の概要 家庭経営学の学び方について、基礎理論を確認した後、家庭経営(家庭経済を含む)に関連するトピックスをとりあげる。それらのトピックスについて自分自身の問題として「考える」ことを通して、自分流ライフスタイルの構築をめざすとともに、現代社会における家庭経営に関する諸課題について、自分自身の生活設計上の問題と関連させながら考察を進める。			
授業計画 第1回：家庭経営学を学ぶにあたって 第2回：生活問題解決スキルとしてのライフスキル 第3回：家族コミュニケーション・スキル 第4回：働くことと家庭経営 第5回：ライフステージと家庭経営 第6回：消費生活と家庭経営 第7回：子育てと家庭経営 第8回：高齢社会と家庭経営／定期試験またはレポート			
テキスト 以下の参考書をもとにした資料を配付する。			
参考書・参考資料等 白井和恵(編著)『21世紀の生活経営—自分らしく生きる—』(第3版)同文書院 内藤道子・中間美砂子ほか(共著)『生活を創るライフスキル 生活経営論』建帛社			
学生に対する評価 授業中の学習活動等への参加状況およびレポートまたは定期試験により授業目標の到達度を判定する。評価の比率は講義の中で説明する。			

授業科目名： 家庭経営学Ⅱ 【独自科目（熊大）】	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 1単位	担当教員名： 八幡彩子 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 家庭）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・家庭経営学（家族関係学及び家庭経済学を含む。）		
授業のテーマ及び到達目標 中学校・高等学校の家庭科教員免許状取得に必要な家庭経営学領域の基礎的知識の習得を目的とする。本授業の到達目標は以下の通り。 1) 中学校・高等学校の家庭科教員免許状取得に必要な家庭経営学領域の基礎的知識を習得する。 2) 授業で扱うテーマについて、中学校・高等学校 家庭科の授業に展開できる。			
授業の概要 家庭経営学の学び方について、基礎理論を確認した後、家庭経営に関連するトピックスをとりあげる。それらのトピックスについて自分自身の問題として「考える」ことを通して、自分流ライフスタイルの構築をめざすとともに、中学校・高等学校家庭科の授業づくりを視野に入れる。高等学校家庭科で重視されている生活設計やリスク・マネジメントの基礎理論を修得すると共に、（おもに高等学校家庭科における）家庭経営に関する授業づくりを考える。			
授業計画 第1回：リスクマネジメントと生活設計 生涯を見通した生活設計を行う際、どのようなリスクがあるのかを概観し、生活保障のための諸制度を把握する。 第2回：リスクマネジメントと介護保険 介護保険制度を中心に、社会の中で支え合って生きることの意義について考える。 第3回：地域社会と家庭経営 地域の中で、ボランティアとしてできることについて考える。 第4回：妻と夫の経済関係 妻と夫の家計・資産・経済関係の実態と政策との関わりについて検討する。 第5回：親と子の経済関係 親と子の関係を経済的側面から検討する。 第6回：高齢期の生活と経済保障 高齢期の経済生活の実態を概観し、外国との比較により、高齢者の生活状態・意識と制度の関わりについて考える。 第7回：家庭生活に関わる問題解決と教育			

現代社会において、家庭生活に関わる問題解決のために求められる教育について考える。

第8回：まとめとふり返り

テキスト

以下の参考書をもとにした資料を配付する。

参考書・参考資料等

臼井和恵（編著）『21世紀の生活経営－自分らしく生きる－』（第3版）同文書院
内藤道子・中間美砂子ほか（共著）『生活を創るライフスキル 生活経営論』建帛社
重川純子『新訂 生活経済学』放送大学教育振興会（2016）
御船美智子『家庭生活の経済』放送大学教育振興会（1996）

学生に対する評価

授業中の討論・グループワーク等への参加状況（30%）およびレポート（70%）により授業目標の到達度を判定する。